

福島県内零細事業所並びに自営業者の健康管理の実態と課題

研究代表者： 福島哲仁（福島県立医科大学衛生学・予防医学講座）

【目的】

福島県内の事業所でも、派遣労働者の契約破棄に象徴される厳しい雇用状況が続いている。不況の深刻化の影響は、正規労働者の解雇まで及び、職場の作業管理、作業環境管理、健康管理にも暗い影を落としている。

不況の影響は、事業所の安全対策に如実に表れ、労働災害の増加として社会的に問題化しやすいが、一方の健康管理対策は、短期間に影響が現れにくいこともあり、その問題の多くが埋もれてしまっている可能性がある。

職場や個人々の健康管理の多くは、特定健康診断（特定健診）の受診がきっかけとなる。この点からも、産業保健分野において循環器疾患対策は、ますます重要な課題といえる。

零細事業所労働者の多くの医療保険は、市町村の国民健康保険（国保）である。今回、我々は、もともと健康管理の実態も十分把握できず、最も不況の影響をうけていることが予想される零細事業所並びに自営業者、農林水産業者に焦点をあて、労働者の日々の健康管理として健康診断を重要な機会ととらえ、国保対象の未受診者調査を実施した。健診未受診者は、特に健康問題が集積していることが予想されているにも関わらず、その実態がつかめていないケースが多い。このたび健康状態や生活習慣についての調査を実施し、健康管理の実態とその課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】

福島県下 A 市の平成 20 年度国民健康保険被保険者（40 歳以上 75 歳未満）のうち、同年の健診を受診しなかった 41,332 名の中から、居住地域と年齢が偏らないように調整したうえで、無作為抽出した 12,015 名を対象に、調査票による郵送調査を実施した。回収率は 5,376 名（44.7%）だった。このデータのうち、

職業が、農林水産業、建設業、自営業、会社員の者 1,587 名（男性：997 名、女性：590 名）を解析対象者とした。現病歴の設問から、高血圧、高脂血症、耐糖能異常で通院中もしくは薬剤服用中、喫煙習慣ありの 4 つを循環器疾患の危険因子として、個人ごとの保有数をカウントした。

また、特定健診未受診理由と、積極的に特定健診を受診するためにはどのようなすればよいか、それぞれ複数回答でたずねた。

【結果】

性年齢階級別にみた分布を表 1 に示した。男女とも 50 歳代、60 歳代が 32%～38% を占めていた。年齢階級別にみた高血圧、脂質異常、耐糖能異常の割合は、男女とも年齢とともに増加し、特に 60 歳以上で高くなっていた。表 2 に、循環器疾患危険因子の保有数を性年齢階級別に表した。男性のどの年齢でも 1 つ保有している者が最も高かった。しかし年齢とともに 2 個保有している者、3 個保有している者の割合が高くなり 60 歳代では 3 割以上が保有していた。女性においても全年齢階級で 1 つ保有している者が高かったが、2 個保有している者が 50 歳代から 60 歳代で、約 3 倍多くなっていた。70 歳代では 1 つ保有している者が半分であった。

平成 20 年度には健診を受診しなかったが、将来、健診を受ける意思があるどうかたずねたところ男女とも 7 割の受診意思があった。また、健診は医療機関による受診を希望している者が男性で 64%、女性で 74% いた。過去の健康教室に参加したことがあるかどうかをたずねたところ、男女とも 9 割の者が参加したことはなかった。

特定健診を受診しない理由をたずねたところ、「個人で医師にかかっている」からが最も多く 3 割いた。次に、「特に自覚症状もなく健康だから」、「仕事などで時間の都合がつかないから」、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」と続いた。

どのようにすれば健診を積極的に受けられるようになるかについては、「休日に受けられるようにする」「待ち時間や健診に要する時間を短くする」「平日の

時間外に受けられるようにする」「健診のしくみをわかりやすくする」と続いた。

表1 性、年齢階級別にみた対象者の状況

		40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-74歳
男性	N	978	133	351	127
	%		13.6	35.9	13.0
女性	N	583	103	224	64
	%		17.7	38.4	11.0

表2 性、年齢階級別にみた循環器疾患危険因子の保有数

		N	循環器疾患危険因子の保有数				
			0	1	2	3	4
男性	40-49	110	34.5	47.3	13.6	3.6	0.9
	50-59	285	22.8	51.2	16.1	6.7	3.2
	60-69	284	22.5	40.1	23.6	7.7	6.0
	70-74	77	26.0	42.9	18.2	11.7	1.3
女性	40-49	90	62.2	30.0	5.6	2.2	0.0
	50-59	192	60.9	28.6	7.3	2.6	0.5
	60-69	140	42.9	31.4	20.0	5.0	0.7
	70-74	50	26.0	50.0	22.0	2.0	0.0

【考察】

零細事業所労働者は、大企業のような保健センターなど保健管理をする部署がないため、なかなか従業員の健康管理を行うのが難しいことが指摘されている。医療保険も多くの経費がかかるため、従業員は国民健康保険に加入している場合が多い。従って、零細事業所労働者の健康管理は保険者である市町村の国民健康保険に加入し、そこで実施される健診を受診することが中心となる。

50歳代、60歳代の壮年期の回答が他の年齢と比較して高かったが、この年齢群における循環器疾患危険因子の保有数は、1～2個の者が多く、特に男女とも60歳代で高くなっていた。特に女性で高くなっているのは、閉経が関連していると思われるが、これらのことから、この年代の健康管理が重要であること

が示唆された。

将来の健診意向は、男女とも7割の受診意思があったことから、積極的な働きかけが必要であると思われる。その中で、健診を受けない理由として、かかりつけ医がいること、心配なときはいつでも医療機関にかかれると思っていること、特に自覚症状がないことがあがっていたことから、病気を発症する前の日頃の健康管理の意識が低いことがうかがえた。循環器疾患危険因子の数個保有しているにも関わらず、健康教室に参加したことがない者が9割いたことから、健康に関する意識が低いことがうかがえた。自覚症状がない時点においても、一次予防の観点から健康教室に参加し、生活改善の機会にしてもらえるよう働きかけが大切である。それには、かかりつけ医の有無に関わらず定期的な自己管理のきっかけとして、健診及びそれに付随する特定保健指導を利用してもらおうよう働きかけることが大切であると思われる。

どのようにすれば積極的に受診できるかに関して、休日や平日の時間外、待ち時間の短縮など、時間に関する意見が目立った。このことから、健診受診場所、時間等の周知を徹底することが大切なように思われる。かかりつけ医がいる場合なら、その医療機関受診の機会を健診の機会として役立ててもらい、地域の医師会と連携しながら進めていくことも重要と思われる。

零細事業所や自営業労働者の健康管理は見落とされがちであり、特に今回対象とした未受診者の状況はこれまであまり明らかにされていなかった。本研究結果から、健診未受診者そのものが循環器疾患のハイリスク者ともいえ、この集団にとって受診しやすい健診体制づくりを構築していくことが重要である。